

JOMF 派遣医師便り (2014. 12)

◆シンガポール◆

デング熱対策

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールは昨年、正式に記録が残る 1990 年代以降では過去最多の患者数(22170 人)を記録し、今年も 12 月 12 日までに 17753 人と昨年までの 5 年間の平均の 3 倍以上となっています。

デング熱は、現時点では、ワクチンや特効薬が無いため、予防、つまりは蚊の発生源をなくすことが大切です。

シンガポールの特徴はこれを行政にまかせきりにするのではなく、国民になるべく参加させて意識を高めていくというところにあると思います。

以前から国民参加型のデング熱対策の活動があったのですが、2013 年 4 月から新たに Do the Mozzie Wipeout Campaign というものが展開されました。これは Dengue Prevention Volunteer Group という団体が主催するという形をとる国民参加型のキャンペーンで、現在までにそのメンバーとなった人は 2000 人以上を数えています。メンバーは国民にデング熱への意識を高めるために、1000 回以上のイベントを行なって来ました。イベント会場では、講演形式の説明だけでなく、寸劇、ビデオ、ゲームなど様々な形式で理解の円滑化を図っています。会場には本物のデング熱を媒介する蚊も展示されます。

また、People's Association というシンガポール政府が作った(1960 年設立)団体も同じ目的のため 1 万人のボランティアを募ると発表しています。

政府は、各小地区で、どれだけのデング熱の患者さんがでているかを示す地図をホームページ上に掲載し、発生患者さんの数によりで 3 色に色分けし行動指針(the Dengue Alert Color Code)を示しています。近隣で、ある期間内に 10 人以上の患者さんが出ている場合、赤色、10 人以下の場合は黄色、患者発生がない場合は緑色となります。

赤色ですと

- ①Mozzie wipeout を 1 日おきに行う
 - ②虫除けなどを体に塗り、長袖長ズボンを着用する
 - ③蚊がいそうな場所(ベッドやソファ、カーテンの下など)には殺虫剤をまく
 - ④地域の蚊の撲滅キャンペーンに参加する
- などの行動が求められます。

黄色では赤色の①～③が行動指針となります。

緑色では

- ①Mozzie wipeout を週に 1 回行う
 - ②暗がりに殺虫剤をまく
- となります。

デング熱の患者さんが発生すると、その家の周辺、その家の内部は NEA(National Environmental Agency)の係官から、蚊の発生源がないか詳しい検査を受けることとなります。係官が行ったときに留守の場合は、週末の夜 7-10 時の間に係官が訪問します。または、当局に連絡をするようにという旨の郵便が届きますので、電話にて係官が訪問する日時を決めることとなります。これは法律的に定められた義務となっており、連絡は 2 日以内に行わなくてはなりません。

デング熱患者さんの発生が続いている地域で、周辺を探索しても発生源が見つからない場合は、所有者と連絡が取れない空家または留守にしている家に発生源があることが強く疑われるため、その際は、(所有者と連絡がとれないので)所有者の許可なしに、当局はその家屋に入り、探索することが法的に認められています。これは、投資目的に不動産を購入し、実際には空き家となっている物件が少なからずあるため必要な措置と思われます。

デング熱の発生を抑えるためには、一人一人の住民の意識が大切です。